二中の木

学校報
第15号
H29/01/25

能代市立
能代第二中学校
TEL52-5138

～平成二十九年度の生徒会～
素晴らしい幕開けになりました。

一月十七日（火）、新生徒会役員任命式が行われました。新旧役員の挨拶には、生徒会を二中を大切に思う気持ちが感じられ、ガッツポースしたくなるぐらい嬉しくなりました。旧役員の挨拶の中に、果たせなかった公約もありました。「ごめんなさい。」というお話がありました。立候補すると言うことがどんなに覚悟が必要なことなのか、役員を務めると言うことがどんなに大変なことなのかを考えさせられました。責任ある立場をあえて努めようとするその高い志に触れることができたことも嬉しいことでした。

二中生徒会を考える

昨年、第42集を数えた生徒会誌「白金」。数日前、佐々木駿会長から新誌に向けた原稿依頼がありました。精一杯書かせていただきます。

ところで、白金第12集は私が生徒会顧問をしていた時のもので、創立40周年の節目の年でもありました。30年が経過しても、色あせることのない生徒達の二中への思いを知ってもらいたいと昨年は筆を執ったのでした。

その時の文章を編集しましたので、あらためて紹介させてください。

「白金第42に寄せて」秋元卓也

第12集の発行に際し、生徒による一編の詩が掲載されました。

～一部抜粋～

二中魂とも言える／「自主」「不屈」「友愛」の校訓から／私達は何を学んだろうか／自らを高めることではないだろうか／校訓に支えられながら／友人と共に苦しみに耐え／何かをつかみとった時／そこに一人の人間としての自分が／誕生するのだろう／将来、温かい心を持ち／豊かな人間になる願いを／この一冊に寄せて

田森美穂子

この年度は、学校創立四十周年にあたっていましたので、学校のこれまでをあらためて掘り起こし、学校のこれからを責任ある態度で担い展望しようとする、意気込みと志を持った生徒会でした。

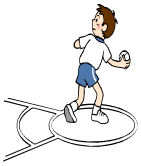
生徒会活動と校訓

当時の生徒会長だった小川建が最初に行ったことは、生徒会の立場から校訓を読み解くことでした。自分たちの言葉で校訓を捉え直してみようという作業です。「自主」生徒一人一人が関わりが持てる生徒会、「不屈」困難をしっかりとした専門部活動で乗り越える生徒会、「友愛」活動を思いやりと協力で支え合う生徒会、という結論でした。生徒会の顧問をしていた私は、どんな生徒会を目指すのか、生徒会として校訓をどのように考えるのかを三役を中心に何度も話し合いをしました。確かな目標と志を持った生徒会と四十周年の節目を過ごせたことは幸せなことでした。

時は流れて・・・

二十数年を経て、相変わらず高い志を持ち続ける生徒会と再会できたことも幸せなことでした。「有志有途」（志有るところに途はひらける）二中はどんな学校でなければならないのかをずっと考え続けてきた私にとって、この生徒会テーマが一つの答えのように思われました。

校訓を自分の言葉で、生徒会の言葉であらためて捉え直してみる作業は、二中への思いを深くするための大切な手続きの一つです。生徒会役員任命式で新旧役員が、自分の言葉で校訓を読み解いて発表する場面を見れたことも幸せなことでした。



二中への様々な思いを背負って

さて、小川建さんは後に、横手市で教員生活をスタートさせます。しかし、間もなく病で志なかばにして帰らぬ人となってしまいました。熱く志を語れる二中生、卒業してもなお二中を気にかけてくれる同窓生、二中のためならの思いでいつも駆け付けてくれる保護者や地域の方々には感謝しきれません。そうした皆さんと出会えた私は、建さんの教師としての志と二中への熱い思いも引き継ぎながら、生徒会と一緒に「長江の光に映える　我が二中」を誇りとする学校作りに努力します。

任命式で藤盛広大朗さんは、役員としての生徒会活動を「自分が考える友愛とは」を話し締めくくってくれました。受け止めましたよ・・・。【終】